



Vol.7

第7回のテーマはこちら

## 「高カルシウム血症」

### ～検査データの落とし穴～

高カルシウム血症は腫瘍学的緊急症(オンコロジー・エマージェンシー)の一つです。これは、生命の危機が切迫している状態であり、早急な対処が必要とされます。進行がんやがん終末期に高頻度に見られるために注意が必要です。

高カルシウム血症は検査データにより軽度、中等度、高度に分類されますが、臨床的な症状は中等度(12mg/dl)以上から出現することが多いです。

高カルシウム血症の症状は多岐にわたります。

他の要因(オピオイドの副作用など)で起こりうる症状と重なることも多いので、何が原因でその症状が出現しているかを確認しておきましょう。

高カルシウム血症が原因の症状であれば、治療により改善する可能性もあります。

カルシウムの検査データを見る上で重要なことがひとつあります。

それは、アルブミン値も同時に確認することです。

カルシウムはアルブミンと結合して体内に存在するため、

アルブミンが低いと検査データ上はカルシウム値が低く出てしまいます。

アルブミンが4.0以下の場合は下記の補正式を使用しましょう。

**【補正カルシウム値(mg/dl)=血中カルシウム値(mg/dl) + 4 - アルブミン値(g/dl)】**

例えば、血中カルシウム値が10.2でアルブミン値が2.0とすると、補正カルシウム値は12.2となります。カルシウム値が10.2なら高カルシウム血症に該当しませんが、12.2だと症状が出現していてもおかしくありません。

カルシウムのデータを見る際は、アルブミン値も同時に確認するようにしましょう。